

3

特集 足の褥瘡を識る

踵部褥瘡の局所除圧方法

丹波光子

杏林大学医学部付属病院 看護部 師長

Point

- ▶ 踵部は褥瘡の後発部位であるため観察をする
- ▶ 踵部に褥瘡がある場合は、血流障害がないかどうか判断する
- ▶ 枕や足用装具などを用いて除圧を行う

はじめに

踵部は、仰臥位患者の下肢では、骨が突出しているために最も圧が加わりやすく褥瘡の好発部位です。踵部の褥瘡は浅いもの（「発赤・水疱形成」）から深い褥瘡（「Ⅲ度以上」）に至る場合があります。下肢の褥瘡は血行障害で発生している場合も多くありま

す。そのため踵部のケアを行う場合は、ドブラやABIを測定して血流を評価することが必要です。本章では、踵部褥瘡の局所除圧を含めたケア方法について述べます。

足の観察

褥瘡は圧迫やずれによって発生します。好発部位は仙骨部・座骨部・尾骨部の他に、踵部にも発生します。患者が好んでとる体位を考慮し、骨突出部を観察します。踵部も褥瘡発生の要因である圧迫やず

れが起こりやすく、褥瘡が発生しやすいため発赤がないかどうか、褥瘡発生を早期に発見することが必要です。そのために踵部をよく観察します。

血流の確認

下肢にできた潰瘍は、血流を評価することが大切です。圧迫やずれにより生じた褥瘡なのか、循環障害（動脈・静脈）によりできた潰瘍なのか判断することが必要です。血流障害がある踵部の褥瘡は除圧だけでは治療することが困難です。また踵部にできた潰瘍をデブリードマンすることで潰瘍が悪化します。

そのため触診で足の冷感や足背動脈・後脛骨動脈を触知します。確認できない場合はドブラやABI（図1）で血流を評価します。血流障害が認められた場合は、専門医にコンサルテーションし適切に対処することが必要です。



図1 ドブラを使用しABIを測定

踵部の体圧測定

体圧計を用いて踵部にかかる圧を測定します。実際の体圧を測定することで患者やケアを行うスタッフに除圧の必要性について教育することができます。体圧は3回測定して中間の値をとります（図2）。



図2 体圧計を使用し踵部の体圧を測定

ずれ・摩擦を予防する

踵部の乾燥は、摩擦やずれが大きくなり創が発生しやすいため、保湿やフィルム材で保護します（図3）。フィルム材は足の動作が大きい場合は、ずれにより容易に剥がれてしまいます。フィルム材が剥がれて何度も交換することで剥離刺激が加わり、皮膚の損傷につながるため患者の体動に考慮し、頻回にフィルム材が剥がれる場合は保湿のみを行い、皮膚を観察し異常の早期発見に努めます。



図3 摩擦を予防するためにフィルム材を貼付

体圧分散寝具の選択

体動が困難で、骨突出が著名な場合は、高機能の体圧分散寝具を使用します。セルとセルの間に踵部が落ち込むことで足首や足底に圧迫が加わり皮膚

が損傷する場合があるため注意が必要です。体位変換枕を使用し踵部が浮いていることを確認します。踵部の挙上の方法は次節で述べます。